

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子中学校

【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

○文脈に即して漢字を正しく使う設問では、県、全国を大きく上回る正答率であった。

○「しきりと」の意味は、6割以上の生徒が正答しており、県、全国と同等であった。

《話すこと・聞くこと》

○県、全国とほぼ同等の結果であった。

●資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかを問う設問では、2～3割の正答率となっており、県、全国の正答率を下回る設問もあった。

《書くこと》

○県、全国をやや上回る結果であった。

●自分の考えが伝わるよう根拠を明確にして書くことができるかを問う設問では、約3割の正答率であった。

●手紙の文章を整える設問では、正答率が3割に届かず、県、全国を下回る結果であり、手紙を書く機会が少なさが影響していると思われる。

《読むこと》

○県、全国を上回る結果であった。

○物語文の中から、登場人物の設定を捉えたり、表現の効果を考える設問では、9割の正答率となっており、県、全国を大きく上回っている。

●文章の構成や展開を考え、記述する設問では、正答率が2割に届かず、県、全国を下回る結果であった。

《生徒質問紙 国語に関する質問》

○国語の授業で、先生はあなたの良いところなどを伝えているかの質問に、「よくある」「たまにある」と答えた生徒が8割近くであり、日頃の授業の中で生徒の良いところを伸ばすことを意識していることがうかがえる。

【 数学 】

《数と式》

○県、全国を上回る結果であった。

○素数の意味を理解しているか問う設問では、県、全国を大きく上回る結果であった。

○数量を文字を用いた式で表す設問では、7割の生徒が正答し、県、全国を2割近く上回る正答率であった。

《図形》

○県、全国を上回る結果であった。

○多角形の外角の意味を理解しているか問う設問では、7割弱の生徒が正答し、県、全国を上回る正答率であった。

●記述式の証明問題では正答率が4割程度で、3割程度の生徒が無回答であった。しかし、県、全国の正答率は上回っている。

《関数》

○県、全国を上回る結果であった。

○事象に即してグラフから必要な情報を読み取る力を問う設問では、正答率が8割以上で、県、全国を1割以上上回っている。

●事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明する問題では、正答率が4割程度で、3割5分の生徒が無回答であった。しかし、県、全国の正答率はやや上回っている。

《データの活用》

○県、全国を上回る結果であった。

○必ず起こる事象の確率についての理解を問う設問では、8割以上の正答率で、県、全国を上回っている。

●相対度数の意味を問う問題では、4割程度の正答率であった。しかし、全国とは同等、県は上回る結果であった。

《生徒質問紙 数学に関する質問》

○授業の内容はよく分かるかの質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒が8割近くであり、日頃の授業が生徒にとって分かりやすい授業であることがうかがえる。

●授業でどのように考えたか説明する活動をよく行っているかの質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒が5割弱と、県、全国と比較して1割程度下回っている。

【 理科 】

《「エネルギー」を柱とする領域》

○電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかを問う設問では、全国を10%以上上回る正答率であった。

《「粒子」を柱とする領域》

○科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかを問う設問では、80%以上の生徒が正答し、県、全国より約5%上回っている。

○化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかを問う設問では、全国より7%以上正答率が上回っている。

《「生命」を柱とする領域》

●水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかを問う設問では、正答率が30%に届かず、県、全国を下回っている。

《「地球」を柱とする領域》

○地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかを問う設問では、正答率が県、全国を10%程度上回っている。

●大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかを問う設問では、県、全国をわずかに上回っているものの、20%に届かなかった。

《児童質問紙 理科に関する質問》

○授業で観察や実験をよく行っているかの質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒が9割以上であり、県、全国を上回っている。

●理科の勉強は好きですか、理科の授業がよく分かるかの質問に5割以上の生徒が、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えているが、県、全国よりは下回っている。

●自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしているかの質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている生徒が、県、全国より1割以上回っている。

◎生徒質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

○自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表したり、課題に対して自分で考え自分から取り組んでいる生徒の割合が全国平均よりも多く、主体的に学習に取り組んでいる様子が垣間見える。○授業でのICT機器の使用についてほぼ毎日使用していると答えた生徒が多く、ICT機器の積極的な活用を含め、生徒の主体性を引き出す授業の工夫などが影響していると考えられる。○自然の中で遊んだりする生徒や、地域の大人に関わってもらい遊んだり体験活動をしたりする生徒が多く、身近にある自然の中で、地域の大人が関わりながら様々な体験活動を経験してきていることがうかがえる。○放課後に2時間以上勉強している生徒が5割を超え、塾や家庭教師に教わっていない生徒が少ないことから、平日・休日に関係なく塾などで勉強している生徒が多いと言える。●読書が好きと答えた生徒の割合が、全国平均と比較して少なくなっている。●先生が分かるまで教えてくれていると答えた生徒の割合が全国平均よりも少なかった。前述している通り、主体的に学習に取り組んでいる生徒が多く、自分で解決できる力のある生徒が多いことや、教師側が生徒自身で解決できるよう促していることなどが考えられる。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- ・主体的に学習に取り組んでいると自覚している生徒が多いので、今後も生徒たちが主体的に学習に取り組めるよう、課題を工夫したり、適切な場面設定をするなどICT機器も活用しながら、これまでの授業改善の取り組みを継続させていきたい。
- ・読書が好きと答えた生徒が全国平均よりも少なかったことから、読書の楽しさが伝わり、図書館に親しみを持ってもらえるよう工夫していきたい。
- ・中学校に入学前までに地域の大人に関わってもらい遊んだり体験活動をしたりする経験をしてきている生徒が多いことから、来年度から学校運営協議会がスタートすることもあり、学校での活動に地域の力を活用していくことも考えていきたい。
- ・これまでも取り組んできた「分かる授業」を継続しつつ、学んだ知識や考えたことを活用し深い学びにつなげるような授業の工夫も続けていきたい。